#129 レディースタイム　　ローマ人への手紙 3 章 22 節～25 節　　2019.01.17

# 見えない神の見える真実

東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

私は大学を出て商社に勤務しました。仕事は分析計測機器を販売する営業マン。
営業の仕事は物を売るということですが、その最後の締めくくりは値段交渉です。
大きな会社では研究員の方に「こういう性能があります。」一緒に実験したりしますが、最終的に値段交渉するのは、「欲しいなあ」と言ってくれる人とは別のセクションなんですね。
そのセクションを資材部と言いますが、ここの仕事は、もう買い叩くことを専門にしていて、この値段交渉が厳しいんです。でも、値段交渉の中に 1 つ原則がある。「現金なら安くします。」
手形とかじゃなくて、一括現金でドーンと払う場合はグッと下げるんですよ。

これは一般でも同じで、小売店で買い物するとき「分割じゃなくて、一括現金なら安くします」ということだったんですが、皆さん、それが変わったんです。
今年（2019）の 10 月、消費税が 8%から 10%に上がりますね、今の予定なら。そのとき、クレジットカードや電子マネーなど、現金じゃないキャッシュレスで払うと、アップした消費税の 2%分がポイントで還元されます。現金で払うよりもキャッシュレスで払う方が得する。というよりも、現金で払う方が損するんです。これね、今までなかったですよ。

日本は先進国の中で 1 番キャッシュレス化が進んでない。というか現金信仰があって、「お金は触って初めてお金や」みたいな。日本でキャッシュレス、カードでやっている方は 2 割です。
世界的に見ると、一々財布の中からお札や硬貨をじゃらじゃらやってる人はどんどん減っていて、中国は殆どキャッシュレス化が進んでいると言われています。政府は何とかキャッシュレスにしたい。

日本の 1 万円札は芸術品です。製造するのにものすごいコストが掛かっているんですよ。
1 円玉だって、1 円作るのに 1 円以上掛かってます。アルミだから。
これから人口も減って行く。お札も硬貨も使っているとドンドンぼろぼろになって行くから、新しい物に変えて行かないといけない。何といっても、物として持っているお金は犯罪の被害に遭いやすい。
落としたり、盗られたり、火事になって灰になってしまったら「あそこにタンス預金あったのにー！」
ウチにもタンス預金あります。火事になっても残るタンス預金。硬貨ばかり。それ、預金言えへん。

だから「キャッシュレスで行きましょう！」世界的に電子マネーでやって行こうと。
21 世紀の世界は手で触ったり・目で見たり・臭い嗅いだり出来るお金を使わない方向。
つまり、見えないものを信じる社会が 1 番効率的ということで、世界全体がザーッとそこに行っている。
目で見ることが出来ない・手で触ることが出来ない・臭い嗅ぐことが出来ない。そんなものを信じるのはバカバカしいと思って来たかもしれないけど、今は見えないものを信頼するのが世界の潮流です。

でも、見えないものだからということで、無批判に何でもかんでも信じ込むのは良くないですよね。
私たちは信ずべきものを信じ、疑うべきものを疑う。信ずべきものを疑ったり、疑うべきものを信じたりするのは、両方とも愚かなのです。信頼すべきものを信頼し、疑わしいものについては疑いを持って「本当かな？」と確かめて行くことが必要ですね。

聖書は絶対的に信頼出来る方を啓示しています。「どんなに信頼しても、し過ぎることがないですよ」と

いう絶対的に信頼出来る信仰の対象として、私たちを造られた創造主なる神様を紹介しているんですね。
今日は聖書の福音を１箇所、何度も語ってきた箇所ですが、分かりやすくご紹介したいと思います。

ローマ 3:23-25
23. すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、
24. 神の恵みにより、キリスト･イエスによる贖いを通して、値なしに義と認められるからです。
25. 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥（なだ）めのささげ物として公に示されました。
ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

23. すべての人は罪を犯して。誰に対する罪なの？神の栄光を受けることができず。神に対する罪。
ここでの神様は人が作った神々ではなく人を造られた方。世界の創造主なる方です。

あそこに生け花がありますが、あれは本物。今は匂い付き造花がある。本物にはかなわない。
僕は「花ってええなあ」って段々分かって来ました。多分、最近分かって来た。
でも、1 個だけ苦手な花があります。白いあじさい。梅雨のとき、白いあじさい見ると頭痛が起こる。
皆にどーん引かれるのであまり言わないようにしてるけど、何でやろ、白いあじさい、大脳に見えない？
しかも片頭痛の脳に、僕には見える。
あるとき出雲に行って、帰りに植物園に連れて行ってくれたんですが、あじさい祭りの最中ですよ。
ずーっとうつむきながら。色が付いているあじさいはいいんです。白いあじさいだけが大脳に見える。

あじさいの葉っぱに、よくカタツムリがくっついてたりしますね。カタツムリの殻、いつもツヤツヤしているのをご存知ですか？雨が降ってないときでも、カタツムリの殻はツヤツヤ光って光沢がある。
なぜ光沢があって、いつも濡れているように見えるのかというと、実際濡れてるんですね。
雨が降ってなくても濡れてる。

カタツムリの殻はアラゴナイト（炭酸塩鉱物と蛋白質の複合物）で、表面は数百ナノメートルからミリメートルの細かーい溝がびっしり詰まっているんです。そういう細かいデコボコしている表面は、平らな表面よりも水を引きつけてしまう作用があるんですね。専門的にはナノ親水という作用です。
あまりにも細かいデコボコがあるので、空気中の水がどんどんそこに集まって、いつも湿っている状態。
それで、殻と汚れの間に水を差しはさむことで、汚れを落としているんです。

リクシル/LIXIL という総合建材メーカーはタイルや家の外壁などを研究していますが、「これいいな」ということで、タイルの表面に親水性のシリカ粒子を吹きつけて、カタツムリの殻の表面と同じ物を工業的に作ることに成功しました。これを家の外壁に塗り付けたら、ほったらかしてても、家が自分で汚れを洗い流すということが分かったんですよ。爆発的ヒット商品。
これによって、定期的に洗い流すというメンテが要らなくなる。ということは洗剤を使わない。大量の水も使わない。お金も使わない。それで大ヒット商品になっています。

なぜ、彼らはそんな物を作ることが出来たのか？カタツムリの物真似をやったんです。
自然界に既に存在しているものの中には、非常に優れたハイテクノロジーというようなものがたくさんあって、LIXIL が自分で思いついたというよりも、カタツムリの殻からヒントを得て、それを物真似することによってすごいものを作ったんです。

では、カタツムリの殻は誰が造ったんですか？自分の頭で「こんな殻がええ」って、カタツムリの脳みそには考えられへんと思う。自分が「こんな体になりたい」と思ったからって、そうなりますか？
私だって「もっと後頭部生えたらいいのに」と思っているけど、思いが体の変化になって現れへんやん。望んでないのにシワ・シミが出て来たり、たるんで来たりするんじゃないですか？

誰かが造ったんです。カタツムリを造った知恵ある作者がおられて、その作品としてカタツムリの殻があるんです。カタツムリのような昆虫にも惜しみなく素晴らしいものを与えた方が、どうして人間を忘れることがあるだろうか。神様はあなたを絶対に忘れていない。
あなたに祝福の人生を歩んでもらいたいと思って素晴らしい出会いを準備し、あなたを世界のどこにもいない希少価値の、たった１人のあなたとして造った方がおられるんですね。
神様があなたを忘れることは１秒もありません。

でも、人間の方は神様を忘れて、「そんなん、1 つの考え方じゃない。クリスチャンの人はそう考えていいかもしれないけど、私には自分の人生観があるから結構です。要りません。関係ありません」というのが多いと思います。創造主から離れて生きていることを、聖書は罪と言うんです。

年末年始に、東京に住んでいる弟夫婦が母の様子を見るために来てくれました。
会社を経営してるんですが、弟はとにかくメッチャ器用なんです。昔から。そして趣味の範囲がものすごく広い。その数ある趣味の１つが料理。これ、いいでしょ？奥様にとったら。

折角大阪に来たからということで、母を連れ出して黒門市場（くろもんいちば）に行って、年末年始の食材を買い込んで「僕が料理するから」と。鴨肉の塊から出汁（だし）の材料から全部買い込んで、そして女性陣には一切させない。「お母さん、座ってて。僕が全部やるから。おせちも。」
三が日、彼が作った料理を食べたけど、うまい！いや、家内の料理もうまいんですよ。それはそれで、うまいんです。うまいんですけどね、男の料理って何やろな、あれ。
列席した全員が絶賛して「うまい！すごい！おかわり！もう無いの?!」これはすごい。
彼は 3 年連続来てくれていて、年末年始、私たちは何もしないんです。「今年もやってくれるやろ。」
腕によりをかけて、調味料も作るんだから。全部自分でやる。奥さんは見てるだけ。
とにかく自分でやるのが楽しい感じ。皆が「すごい料理人だな。お店出せるんちゃいますか」と。

そのとき、もし料理を食べた人たちが、料理人の彼にではなく調理道具の鍋・釜・包丁に向かって「素晴らしい出来栄えでございました！」と、鍋に感謝したり・包丁に話しかけたり・釜に頭下げたりして、肝心要（かんじんかなめ）の作者である料理人を無視して、こちらで話が盛り上がっていたら、「俺、もう来年来るのやめるからな」となるんじゃないですか？

人間が生きて行くために、自然界は無くてはならない素晴らしいものです。海も山も水も空気も太陽も。
でもそれは、神が造られた作品。神が私たちを生かすために使っている道具です。
1 番認められるべき・感謝されるべき・崇められるべきお方は、人を生かすために必要なそれら自然界を造った方であって、自然界を拝んでもダメです。

太陽って水素の固まりですよ。水素がヘリウムに転換する時にエネルギーが出てるというものです。
お天道（おてんと）さまと言って拝むけど、それを造った作者がおられる。私たちの造り主がおられる。
造り主から離れていることを聖書は罪と言い、その罪の結果、人は不幸です。

旧約聖書に『神の手が短いから、あなたを救うことが出来ないんじゃない。神の耳が遠いから、あなた方の声が聞こえないのではない。神とあなた方の間で、あなた方の罪が仕切りになっている。
神は祝福したいと思っているけど、祝福を跳ね返す遮蔽物が横たわっているので、救おうとしても救うことが出来ないんじゃないか。祝福を与えたいけど与えられないんじゃないか。』

だって、罪を犯し続けていて、しかも祝福を受けたら、神は罪を容認することになりませんか？
もちろん、太陽や空気というような一般恩恵はありますが、神様が本当に用意している祝福は、私の罪がそれを邪魔して、私のものにならないようにしている。神と人との間の罪。
神様から離れた結果、人は死ぬものとなりました。そして、人間は死んで終わりではない。
『死後にさばきを受けることが定まっている』と書いてあるんです。

アンデルセン（1805-1875）という童話作家、ご存知でしょ。彼は色んな職業を転々として、最後童話作家として大成しますが、彼の童話は主人公が死ぬというところで終わる話が多い。
『人魚姫』『おやゆび姫』『マッチ売りの少女』。とにかく、主人公が最後に死ぬ話が多い。
それは１つには、彼は死というものが怖かったんですね。彼はクリスチャンなんだけど、「死ぬとき、どんな感じかな」と考えてたら寝られなくなる。

彼は色んな所を旅するけれど、必ず鞄にロープを入れてました。もし宿が火事になったら、窓に結わえて下りるため。また、寝ているだけなのに死んだと誤解されて葬られるのを恐れて、寝るとき必ず“寝てるだけです”と紙に書いて寝る。ちょっと病的。だって、埋められようとしたら起きるやん。
でも、心配やったのね。その恐怖をなだめて行くために、「そうだ。イエス様が僕の罪を赦してくれたんだ。イエス様は死んで３日目によみがえったんだ。」
言い聞かせて言い聞かせて、休みに就いたと言われています。

命のルーツである神様との関係が切れているということが、地上を生きている期間においては「なぜ、うまいこと行かないんだろう？」死んだ後「なぜ、神無き世界に落ちて行くのか？」
生きているときに、既に神様から離れているからです。神から離れていることは人にとって不幸ですが、私たちを愛している神様にとっても大きな痛みなんですよね。

## 23. すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず

人が犯す色んな罪の中で最も深刻な根本的罪は、創造主を無視する・創造主から離れるということです。
頭で情報としてそれを聞いたときに「あぁ…、そうなんだ…」と痛む人は、既にクリスチャンの場合が多いと思います。でも初めに聞いたとき、「そんなん、人には色んな人生観があって、考え方があって。そんなん知らんわ」という感想を持つ方も多いかもしれませんね。

僕の趣味は読書で、今も何冊か猛烈な勢いで読んでます。なんでこんなに本好きなんかなとずーっと考えたら、やっぱり最初に読んだ本が良かった。小学校の時に。
新美南吉（にいみ なんきち/1913-1943）の『ごんぎつね』。中野幼稚園のとき、担任のカツラ先生が読んでくれたのが嬉しくて、自分で読みたくて字を覚えたんです。本読みたいと思って。本との出会いですね。

ごんぎつねというごんたくれのキツネ。とにかくイタズラが大好き。山で生活してたらいいのに、時々村に下りて来て、嫌がらせしたり困らせたりして、「あはは。やったった！スカッとした！ストレス解消！」
ある朝、川原に下りて行くと、１人の男が冷たい川の中で何かさらって取っている。

それは村人の兵十（ひょうじゅう）で、うなぎを取ってるんです。
「うなぎのシーズンじゃないのに、こいつ、意地汚いヤツやな。なんで取ってるんや？」

捕まえたうなぎを魚籠（びく）に入れたのを見ていたごんぎつねは、2 匹目のうなぎを取ろうと作業している兵十に近づいて、魚籠に入っていたうなぎを取り出して逃がすんです。
兵十が 2 匹目捕まえて、魚籠に入れようとしたら入ってない。「あれ？さっき入れたのに入ってない。穴でも開いてるのか？開いてない。不思議や。」

魚籠は一旦入れると出入口がキュッと締まって、自分で出て行けません。「確かに入れたのに。不思議や。」
それを入れて、また捕まえようとしていると、ごんぎつねがまた同じことをする。
兵十は万が一と思って、魚籠の上に石で蓋をしました。「これで、うなぎも逃げられまい。」
ごんぎつねは石を取り除けて、また逃がすんですよ。兵十は「今度は絶対おるはずや」と石を取り除けてみたら、いてない。

ごんぎつねは笑いをかみ殺して、「あれでも人間か？そろそろ気ぃ付かんかい！」
人間が一生懸命頭を悩ましている姿を見るとき、なんとも言えない快感が体を走るんですね。
兵十は「誰かがやってるに違いない。」うなぎを取るフリしながら魚籠の方を見ると、ごんぎつねがやっとんねん。
ごんぎつねがうなぎをまた逃がしたとき「こらー！」そしたら、ごんぎつねが「今頃気ぃ付いたんか、このバカたれが！」おしりペンペンみたいな世界。悔しい！石投げるけど当たらない。
「お前、それでも人間か！」と山に帰って、「今日も一日スッキリした！イタズラ楽しい！」

次の日の朝散歩して、散歩だけじゃつまらんと、また村里に下りて行ったけど、いつもと様子が違う。
線香の匂いがして、村人たちが野良着ではなく喪服着てる。「葬式やわ。」ついて行くと兵十の家の葬式。
「え?!あいつ、昨日元気やったのに。」兵十が死んだのか、お母さんが死んだのか、ちょっと気になる。
今までは、人間が死のうが葬式があろうが気に留めたことないけど、昨日今日の話だから気になって、1 番後ろについて行ってみるとお母さんが亡くなってた。

兵十が弔いが終わった後に天を見上げて泣くんですね。「おっかぁ、ごめん…。死ぬ前に 1 回でいいからうなぎ食べたいって。季節外れだけど、昨日一生懸命うなぎ取ったのにキツネが逃がして。一口でいいから、おっかぁの口に入れてやりたかったのに出来なくて。それだけが悔いが残る。悔しい！おっかぁ、願いをかなえられなくてごめんなぁ！」

そのとき、ごんぎつねの中に生まれて初めて良心の呵責が生じたんです。
今までは「イタズラ楽しい。スッキリ。ストレス解消。あはは。」笑ってたのに、今自分の中に「何ということをしてしまったのか…！」孝行息子の兵十の心に、生涯悔いを残すようなことをやってしもた。
それが分かったとき、何ということをしたのかと、ここからごんぎつねの償いが始まるんですね。
続きは皆さん読んでください。

昨日、「なんで罪が分からへんのかな」と色々思い巡らしていたとき、この話をふと思い出したんです。
今まで散々イタズラを繰り返しているとき、ごんぎつねの心に「これは悪いことや」という痛みが走ることはなかったのに、なぜ兵十のときに痛みが走ったのか？罪のダメージ・被害を負った人の姿を見たからです。

相手が見えないとき・相手の心が見えないとき・自分のしでかした行いの波及効果や究極的にどこに行き着くのかが見えないときは、罪と言ってもイタズラ程度の感覚でしか捉えることが出来ないんですね。でも、姿が見えた。「親孝行が出来る一生で最後のチャンスを、俺はぶち壊したんだ！」ということが分かったとき、「何ということをやっちまったんだ…。」

神様に対する罪がなぜ分からないかというと、神が見えないからです。
神の心が見えない。神の気持ちが分からない。手で触ったり、目で見たりすることが出来ない。
だから、何かお話の次元で聞いてしまう。だけど、人間の心に喜怒哀楽という感情を与えた神様には喜怒哀楽があるんです。神にも感情がある。神には知性がある。神には意思がある。神の知情意は完全。

完全な感受性を持っている方が、愛する人間から無視されるときの痛みはいかばかりでしょう。
完全な聖さを持っている神が、人間が行う罪の一つ一つをご覧になるとき、神の中にどんなに痛ましい痛みがあるでしょう。そして未来の、この世界の 1 番最後まで、人が死後に行く世界のことまで完全に全部ご存知の方は、愛する人間が罪を持ったまま死んで永遠の滅びに行くことを、どんなに悲しんでいることでしょう。

私たちは見えないから感じない。でも、神は全てご覧になることが出来る。エルロイ。ご覧になる神。
悔しかったことも・辛かったことも・痛ましかったことも全部神様はご存知で、その私たちを案じ、祝福を願っている創造主を喪失する・紛失する・手放すこと以上に大きな損失はありません。

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができずということは、人間は罪を犯しさえしなければ、神の栄光を受けることが出来たはずの存在なんです。
罪のために神の栄光を受けることが出来なくなっている。
もっと言うと、今罪人でも、罪の問題を解決するなら、再び神の栄光を受け取る・神の栄光を仰ぎ見る・神の栄光を反映する輝きの人生の中に回復させていただけるのです。

そこで神様は罪の問題を解決するために、24. 神の恵みにより、キリスト･イエスによる贖いを通して、値なしに義と認められるからです。
正しい方が悪い者のために、最も正しいご自分のひとり子 イエス･キリストをこの世界に送ってくださった。傷を受けた方・罪の被害を被った方・正しい方が、傷を与えた者・罪を犯した者・悪い者の代わりに、その償いをするためにイエス･キリストという救い主をこの世界に送ってくださった。

この間の日曜日の福音集会で、『家（うち）へ帰ろう』という映画をちょっと説明しましたよね。
来月、ポーランドに行くんですが、ポーランドには三大都市があります。1 番でっかいのがワルシャワ。3 番目がクラクフ。2 番目が主人公の生まれ育った町でウッチ。
彼は強制収容所に入れられたけど、親友の庇い立てで命を長らえて、「もうポーランドにはいたくない。ナチスの迫害を受けた所にはいたくない」と、アルゼンチンに行って仕立て屋さんになる、という話。

映画のタイトルは『家（うち）へ帰ろう』。ウッチへ帰ろう。分かります？うちとウッチを兼ねてるワケ。
なぜウッチに帰るのかというと、助けてくれた親友と 70 数年ぶりに再会して、自分が仕立てたスーツを彼に渡したいから。

家内と行ったのですが、映画館に集会の女性クリスチャンがご主人と一緒にいました。

で、映画のパンフレットを買われたので、「あ、借りよ」と思って買わなかったんです。
まだ返してない。今日返しますんで。すみません。彼女が「私、ウン何十年生きて来たけど、見た映画の中で１番良かった。」良い映画、すぐ終わってしまうね。

主人公はアブラハムという名前で迫害経験がある。そして娘が３人か４人いるのですが、あまりの頑固親父に嫌気が差して、血を分けた本当の娘だけど皆お父さんを煙たがって、「お父さん、財産渡してくれたら、もうええから！」「財産分け欲しいから、早くこの職場兼住宅の家を売ってよ！」
それで、喧嘩別れして出て行く。

ポーランドに行くためにスペインからずーっと電車に乗って行くんですが、スペインで全財産を泥棒に盗られて。末娘がスペインに住んでいるので、助けを請うたらいいのに出来ない。
ものすごい親子げんかして、亀裂が入ってるんです。

皆が見てる前で、このお父さんは娘自慢をしたかった。老人仲間に「俺は娘たちにこんなに重んじられ、尊敬され、愛されている幸せな親父なんだ」ということを見せびらかそうとして、(娘たちに)「愛していると言ってくれ」と言うんです。上の姉さんたちは上手いこと言うけど末娘はシャイ。
皆の前で「パパ、愛してるわ」なんて言えないんですよ。「見世物みたいになるのはイヤ」と言って、出て行ってしまった。それがこじれの原因。皆の前で恥かかせたと。親子げんかの理由。
娘の中でお父さんを１番愛しているのは彼女なんです。だけど、プライベートな会話を第三者に見せびらかすというのが、すごく純粋な彼女には嫌なことだったんですね。

でも、お金に困って「金貸してくれ。」道で立ち話するのですが、夏なので袖をめくっていました。
アブラハムの腕には強制収容所に入った者が入れられた囚人ナンバーが彫ってあるのですが、それと同じナンバーが娘にも彫られている。娘はすぐに隠すのですが、なぜ彼女に彫られているのか？
「お父さんが背負っているものを私も背負いたい。」
「この娘は俺のことを全然分かっとらん」と思ってたけど、彼が知らない間にそんなことをしていたと後で分かった。

ユダヤ人の中には、強制収容所に入れられた人たちの子孫が、「私は運命共同体なんですよ」ということを表すために、生き残った人たちが恥じて隠しているものを、消えない刺青の形にして自分の体に刻むということがあるそうです。その実話をエピソードとして映画の中に入れてるんですね。

愛というのは愛している対象と１つになる。その人が苦しんでいるときは自分も苦しい。
その人が不幸せに見えているときは、自分も不幸な気持ちがする。
その人が幸せそうにしていたら、自分も幸せな気持ちになりますよ。
「あなたが背負って来たものを私も背負います」という意思表示ですよね。

キリストは全く罪が無い方でした。が、私たちの罪を背負ってくださった。そして、私たちの死を背負ってくださり、本来私たちが受けるべき裁きを背負ってくださった。なぜ、そんなことをしたんだろう？愛しているからです。ところが自分の偏見のために、１番愛してくれている娘との間にしこりがあって、そのことが中々分からなかった。

「キリストは外国の人。関係ないわ。」自分に１番関係ないと思っているその方こそが、世界を造った創

造主なる方です。その方が私の罪を背負って、十字架の上で私の罪の償いをしてくださった。
墓に葬られた。3 日目に死を突き破って復活してくださった。
この償いをキリスト･イエスによる贖いと言います。

24. 神の恵みにより、キリスト･イエスによる贖いを通して、値なしに義と認められるからです。
値なしにとは、何一つ代価を払わずに義と認められます。無罪とされます。全ての罪が赦されます。
神がキリストにおいて準備してくださった救いを、ただ信仰によって受け取るだけで無罪とされます。
義とされます。これを受け取るためにどうしたらいいのでしょう？

ローマ 3:22 すなわち、イエス･キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

どんな人に与えられる罪の赦しかというと、信じるすべての人に与えられる神の義です。
一体、誰を信じたらいいんでしょうか？イエス･キリストを信じることによって。
イエス･キリストが私の罪の問題を全部帳消しにするために、私に代わってしてくださった救いのみわざを信じるのです。それを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義。
難しくありません。「ありがとうございました」と言って、イエス様を受け入れたらいいんですよね。

大学の先輩で、もう亡くなられたけど、古い古い大大先輩に吉岡たすく（1915-2000）さんがおられます。
『小さいサムライたち』。昔、よくそんな番組をやってました。
彼は小学校の 6 年間に 6 回転校してるんです。転校、嫌やと思いますよ。人間関係、一から作り直さなアカンから。毎年転校。毎年、友達違う。毎年、担任の先生が違う。
4 年のときの担任がすごくいい先生で、彼は講演でその先生のことをよく紹介して、彼が言うには“コオロギ先生”。声がコオロギみたいにコロコロコロ。どんなんや。

先生は体育教師で、昔だから逆立ちの授業があった。小学 4 年の授業で逆立ちやる？皆 1 メートルも行かんうちにパッタンパッタン倒れる。それ見て「あなたたち、何やってるの」ってキャラキャラ笑って。
子供たちが「先生笑うけど、自分出来るんか？」「こんな小さな校庭なんか、1 周出来るわ。」
「そんなん、出来るわけない。」「出来たらどうする？」「逆に、出来ひんかったらどうする？」
「何でも言うこと聞いたるわ。その代わり、出来たらどうする？」すると子供たちが「何でも言うこと聞いたるわ。」1 周した。体育大学上がり。お茶の子さいさい。そのときから、子供たちの先生を見る目が尊敬。「逆立ち先生スゴイ！」ヒロインみたいな。優しくてとても幸いな先生。
講演で彼女のことを、何十回も何百回もお話することが多かったそうです。

その先生が亡くなったとき、お子さんが「母の遺品を整理してたら日記が出て来ました。その中に吉岡少年が何回か出て来ます。そのページをコピーしたので、よかったら読んでください。」送ってきはった。
コオロギ先生の日記！懐かしい。そして、自分も忘れていたことをコオロギ先生が克明に記録しているのを見て、「すごいな。生徒たち一人一人を心に覚えていてくれたんだな」と嬉しくなってね。

夕方、憧れのコオロギ先生が職員室に立っていたのを校庭から見たとき、夕焼けのシルエットを背景にしたコオロギ先生が、なんとも美しく見えたそうです。「あぁ、きれいだなぁ」と若い女の先生にウットリしてじっと見てたら、窓の上から蜘蛛がシューッと下りて来て、コオロギ先生の顔の前に…。
でも、蜘蛛は窓の外。コオロギ先生は部屋の中。だから触られてない。

だけど外から見ると、コオロギ先生の顔にゾワゾワした蜘蛛が下りてきたように見えて、気が付いたら、石拾って職員室の窓に投げてた。バリーン割れて。「何しとんねん、俺は。」

その現場を他の先生が見てたんです。「お前、教師に向かって石投げて。怪我でもしたらどうするんだ！窓ガラス割って、どういうつもりだ！」とっちめられるけど、なぜかそのとき言えなかった。
憧れの先生にウットリしてたというのを知られるのも恥ずかしかったし、危害を加えるつもりはなかったという弁明をなぜか言えない。

ぼろかすに怒られているとき、当のコオロギ先生が来て「この子はそんな事をする子じゃないです。何かの間違いだと思います。」「私はあなたに向かって石を投げる現場を見たんです。」
「先生、ここは私に任せてください。」吉岡君を別の部屋に連れて行って、そこで初めて蜘蛛の話を聞いたんですね。それで先生が「それは誤解です」と執り成してくださったので、大きな問題にならなかったそうです。

そのときの事が日記に書いてあって、「私は信じる。吉岡君の言葉を信じる。私は吉岡君のことを信じている。」で終わるんです。その文章を読んだとき、何十年振りのことだけど、涙が止まらなくなった。
“僕”という人格を先生は信じてくれた。小学 4 年の少年の言葉を先生は信じ、見たと言う同僚教師の言葉を退けて、「この子はそんな事をするはずがない」と突っ切ってくださったんだ。
そのとき、もう会いたくて会いたくて。嬉しくて嬉しくて。

「断食しなさい！」「お祈りしなさい！」「聖書をたくさん読みなさい！」
これは成長のために必要かもしれませんが、救いのためには関係ありません。
神様が私たちに求めているのは 1 つだけ。信じること。あなたの救い主であるイエス･キリストを信じることです。イエス･キリストを信じることによって、信じるすべての人に神の義が与えられます。

いかがでしょう。人格ある者にとって、信じられるということほど素晴らしいことはないんですね。
人間関係でもそうであるなら、ましてや、疑わしいことが全くない神様に対して 1 番ふさわしい態度は神を・救い主を信じるということです。
逆に、神様に対する最大の罪は疑うこと・不信仰・信じないこと・離れて行くことです。

ぜひ、イエス･キリストを信じてください。そして、ご自分の救いを頂いてください。
心からお勧めしたいと思います。

＊動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
＊ラジオ番組「聖書と福音」（約 15 分）もぜひどうぞ。YouTube もあります。
＊YouTube「ごうちゃんねる」もぜひ見てください。　　動画筆記：Rumi